

自然の中でのサケの一生

1. サケは川で生まれる

サケは、冬に川底の砂利の間で生まれます。しばらくの間は砂利の間で暮らし、やがて稚魚にまで成長するとそこから出て泳ぎ出します。

そして、春にかけてゆっくりと、あるいは一気に海へ下ります。

サケの稚魚。砂利の間から出てくると、エサをとりながら海へ向かう。



川で行われた大きな工事

川に上るふだんの暮らし

川に上る農業

川に上る漁業や工業

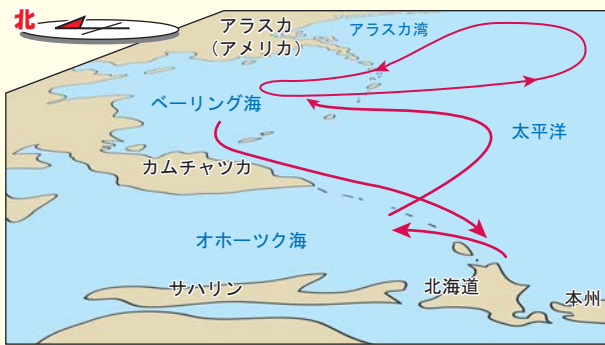
付録

2. 海に出て、ベーリング海まで

海に出たサケ稚魚は、1~2ヶ月間沿岸帯で成長し、その後オホーツク海で夏から秋までを過ごしたあと東へ向かい、次の年の6月ころベーリング海に入ります。

サケたちは秋になるとアラスカ湾へ行って冬を越し、春になるとベーリング海にもどります。これをくり返しながら、3年から5年ほど海で育ちます。

サケは海に出るとベーリング海まで泳いでいく（この地図では左が北）。



3. 生まれた川に帰ってくる

海で大きく育ったサケは、卵を産むために、生まれた川をめざします。

これらのサケは、体の中に海の栄養を取りこんでいます。

川を上るサケ。上るにつれて、体に色がうかび上がる。



4. 産卵、そして死

サケは川を上り、底が砂利でわき水があるところを探します。

そんな場所を見つけると、メスが卵を産むくぼみ(産卵床)をほり、そこにオスが寄りそいます。そして産卵・放精をおこないます。

産卵が終わると、7~10日ほどでオスもメスも死んでしまいます。

しかし、卵を産むことで新しい命にバトンタッチをし、また、海の栄養を陸のおくまで運び上げるといふ、大切な役割を果たしたのです。

(上) 産卵場所で寄りそう2匹のサケ。
(下) 死んだサケ。



参考:「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編 (株)日本海洋センター 1991
「サケ・HTBまめ本60」木村義一 著、北海道テレビ放送、1998
「北海道さけ・ます増殖事業協会のホームページ」 <http://www.sake-masu.or.jp/>
「独立行政法人 水産総合研究センター さけますセンターのホームページ」
<http://salmon.fra.affrc.go.jp/>

浦和茂彦(2000)日本系サケの回遊経路と今後の研究課題、さけ・ます資源管理センターニュース No.5、p3-151
米盛保(1975)北海道起源シロサケに対する標識放流から得られた結果の分析についての試み、北太平洋漁業国際委員会研究報告、第32号、p123-151